

5-2-2 短期大学教育改革ICT戦略会議

<事業計画>

社会のニーズと短期大学教育のマッチングを行い、教育の質的転換が促進できるよう「短期大学就業力コンソーシアム構想」に基づく活動を支援する。また、文部科学省中央教育審議会において議論されている短期大学の役割・機能の情報を共有し、地域社会と連携した就業力教育の充実を目指すため、「短期大学教育改革ICT戦略会議」を継続実施し、ICTを活用した教育戦略について研究討議する。

<事業の実施状況>

「短期大学会議教育改革ICT戦略運営委員会」を継続設置して、「短期大学教育改革ICT戦略会議」を開催するとともに、短期大学就業力コンソーシアム構想に基づいた活動を支援した。以下に、委員会の活動を報告する。

短期大学会議教育改革ICT戦略運営委員会

平成26年4月28日、5月26日、7月26日、平成27年3月16日に平均5名が出席し、4回開催した。短期大学教育の機能強化を図るため、地域社会と連携した就業力教育の充実を目指して、全国の短期大学を対象に「短期大学教育改革ICT戦略会議」の開催計画の策定、実施準備を行った。また、短期大学就業力コンソーシアムによる卒業生アンケートを集計・分析し、短期大学教育改革ICT戦略会議で報告した。

(1) 開催計画の策定

短期大学の強みを生かした教育を展開していくため、地域社会や産業界から求められる「短期大学士力」の確立を目指して、アクティブ・ラーニングなど効果的な教育方法について実践事例を通じて探究するとともに、中央教育審議会の短期大学士力に関する審議動向を踏まえて、短期大学士として必要な能力を確認し、卒業生から教育に望まれる内容を業種別に整理した「短期大学就業力コンソーシアム」の調査結果を教育改善に反映することを目指し、以下のように開催計画を策定した。

短期大学教育改革ICT戦略会議開催要項

日時：平成26年9月4日（木） 13:00～16:30

場所：アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館）

【開催趣旨】

中央教育審議会では、短期大学の教育の在り方について、その役割と機能の面から見直しを進めており、短期大学は4年制大学と専門学校との差異化を通じて、強みを具体的に明確化していく点が問われている。このような状況を踏まえて、地域社会や産業界から強く求められている「短期大学士力」を有する有為な人材育成に積極的に取り組む必要があり、アクティブ・ラーニングなど効果的な教育方法の導入による本格的な教育改革が不可欠となっている。

そこで、本会議では、中央教育審議会での審議の動向を踏まえて、短期大学士として必要な能力を整理確認する中で、職業一般に必要な教養教育、地域・企業等社会の人材ニーズに対応した教育、ライフステージに応じた教育、学士課程教育への接続教育の在り方を点検するエビデンスとして、「短期大学就業力コンソーシアム」の調査結果を活用した短期大学教育と就業力とのマッチングを通じて、さらなる短期大学士力の確立を目指す契機としたい。

【開会挨拶】 短期大学会議教育改革ICT戦略運営委員会 戸高 敏之 委員長

【事例紹介1】 「アクティブ・ラーニング手法を取り入れた地域・産業界との連携教育」
静岡英和学院大学短期大学部食物学科准教授 前田 節子氏

アクティブ・ラーニングを活用した教育力の強化、地域・産業界との連携によるインターンシップの高度化などの取り組みを食物学科の学生を対象に行い、その結果、学生の自主的な授業参加、課題発見力、実践的な計画・立案力、情報分析力などの社会人基礎力の向上に効果が見られたことを紹介する。

【事例紹介2】 「自ら考え行動しチーム貢献できる保育者養成」

聖徳大学大学院教職研究科、同短期大学部保育科教授 藪中 征代氏

学生の主体的な学びを推進する課題解決型学習として、少人数コミュニティを形成し、保育現場と連携したテーマ学習、学習成果の発表、相互評価の実施などアクティブ・ラーニングを駆使するとともに、保育科教員全員によるFD活動、事務局による教育支援体制など全学をあげての教育を通して、保育現場で必要とされる能力向上に効果がみられたことを紹介する。

【話題提供】 「短期大学士力の考察～中央教育審議会での意見を踏まえて～」

中央教育審議会大学教育部会短期大学ワーキンググループ専門委員 小林 雅之氏
東京大学大学総合教育研究センター教授

現在、検討が進められている「短期大学教育の在り方」についての意見等を紹介いただき、短期大学における教育の価値について共通認識を得るため、短期大学士力として身につけるべき教養教育、職業教育のための基礎的な実務教育等、短期大学の強みを発揮するための教育改善について話題提供を受け、意見交換を行う。

【活動報告】 「短期大学就業力コンソーシアムによる教育点検」

職業一般に必要な教養教育、地域・企業等社会の人材ニーズに対応した教育、ライフステージに応じた教育、学士課程教育への接続教育の在り方を点検するエビデンスとして、短期大学として取り組むべき課題を洗い出し、教育改善に向けた取り組みを促進するコンソーシアムについて、実施報告と事例を踏まえた活用の意義・効果を紹介し、意見交換をする中でコンソーシアムの拡充を呼びかける。

<短期大学就業力コンソーシアムの実施報告>

短期大学会議教育改革ICT運営委員会

<教育成果を点検するための卒業生アンケートの活用>

戸板女子短期大学メディアセンター／キャリアセンター部長 坂 勇次郎氏

<討議>

(2) 開催結果

参加者は35短期大学から47名の参加があった。以下に会議で確認された点を中心に概要を報告する。

- ① 地域・企業連携による商品開発や食育ボランティア、インターンシップなどの能動型学修を実施したところ、課題発見力、実践力の能力の向上が確認できた。
- ② 保育現場と連携したテーマ学習や学習成果の発表、保育科教員全員によるFD活動を実施したところ、保育現場で高い評価が得られたことが確認できた。
- ③ 中教審短期大学ワーキンググループで指摘されたこととして、短期大学の強みと弱みを明らかにした上で、教育目標を設定し、大学ポートレート、IRなどによる積極的な情報公開により、専門学校との差別化を行う必要が確認された。
- ④ 短期大学就業力コンソーシアムによる調査の結果、資格取得に関わる学科では、学科や専門領域の学問や知識が重要で、事務、接客等の職種の場合は、ジェネリックスキルが求められることが確認できた。
- ⑤ 卒業生アンケート活用の実践例として、卒業生アンケートを教学マネジメントに反映させるため、IR会議による分析と評価を通じて、教育課程編成に関する全学的な

方針の策定を実施し、教育改革の貴重な情報として反映されていることが確認された。
開催結果の詳細は、事業報告の附属明細書【2-10】を参照されたい。

(3) 短期大学就業力コンソーシアムによる卒業生アンケートの集計・分析

運営委員会でアンケートの集計と分析を行った。回収数は642件で卒業生に対する回収率は9.4%であった。以下に集計・分析結果を掲載する。

現在、「就業者」は92%で、「職種」については、幼児・保育系が4割、接客業2割、事務的職業2割、製造業従事1割、販売的職業他1割の割合となっている。「身に付けておくべき能力」として、幼児・保育系及び栄養士では学問分野や専門領域に関する知識・理解が求められており、接客業、事務的職業、製造業従事では、コンピュータやインターネットの活用力、プレゼンテーション力、資料・報告書等の作成力、外国語の語学力などジェネリックスキルが求められている。また、自由記述による意見では、「知識だけでなく実技も必要」、「試験には論述式も必要」、「詰め込みで目の前のことをこなすのに一杯」、「夏休みや冬休みを削っても勉強、ゼミ、課外活動に取り組みたい」、「クラスによって授業や成績評価が異なる」などがあり、知識の修得以外に思考する学びや体験型学修などが求められている。なお、詳細は、事業報告の附属明細書【2-10-1】を参照されたい。

